



伊藤まさひろ県議会レポート

発行/自由民主党千葉県議会議員会

〒260-0855 千葉市中央区市場町2番13号 電話 043 (227) 7411

避難所でLPガス活用を

12月県議会一般質問

伊藤議員 東日本大震災の時には、長期間、広範囲に都市ガス・電気が遮断され、避難所はあるものの、避難所の役割を果たせず、その生活は非常に困難を極める状態だったことは周知の事実であった。

本県においても、令和元年房総半島台風により、県内で64万件を超える停電が発生し、復旧までに2週間以上を要するなどの被害が発生しており、ライフライン

の途絶は、被災者の生活環境の悪化につながり、場合によっては命に係わる大きな問題となる。

現在、学校の体育館の空調設備の早期実施が進みつつある。災害時に、避難所となる体育館の空調設備にLPガスを燃料とする冷暖房設備を導入すれば、災害時に、市ガスの供給が断絶などの状況下においても十分に力を発揮できることなどから、

県としては、避難所におけるLPガスの活用事例等について市町村に情報を提供し、県においても設置



県の施策を質問する伊藤昌弘県議

佐倉、酒々井を夢のあるまちにと、議員活動に全力を挙げている伊藤昌弘県議(5期)は12月定例県議会で登壇し、避難所でのLPガス活用、浄化槽の法定検査、介護人材の不足問題などについて知事ら県執行部に質問しました。

災害で電気や都市ガスがストップした避難所では寒さや暑さへの我慢が強いられませんが、伊藤県議はLPガスの冷暖房設備を避難所として利用される体育館などに備えておけば問題は解決するとして、県に整備を提案しました。

国のエネルギー基本計画においても、災害時におけるエネルギー供給の最後の砦と位置付けられている。

そこであかろが、避難所に、LPガスを燃料とする

非常用発電設備や冷暖房設備などの整備を進めるべきと考えるかどうか。

防災危機管理部長 LPガスは、長期間の保管でも品質が劣化しにくく、また、ガスボンベにより短い配管で家庭などに供給されるため、災害時にも復旧が比較的早いなどの特徴を有することから、非常時における発電や、冷暖房などにも活用できる、災害に強いエネルギー源のひとつと認識をしています。

このため県では、市町村向けに作成している「災害時における避難所運営等の手引き」において、LPガスの利用が可能な資機材の確保について促すとともに、LPガスを燃料とする発電設備や空調設備等の避難所への設置に取り組む市町村への財政支援も実施しているところだ。

今後も、避難所における生活環境の向上に向け、災害による停電や都市ガスの供給遮断時にも、LPガスを含めた多様なエネルギーを活用できる環境の整備を促進してまいります。

被災者の良好な生活確保

伊藤議員 停電や都市ガスの供給遮断に備え、避難所にLPガスで稼働する空調設備とともに、燃料を確保するための災害ハルク供給設備等の大型保管容器の整備を進めるべきと考えるかどうか。

防災危機管理部長 避難所にLPガスを活用する資機材や、燃料を保管・供給するための設備を設置することは、被災者の良好な生活環境を確保する上で有効な手段のひとつと考えております。

伊藤議員 学校の体育館は、避難所に指定されているところが多く、LPガスによる空調設備で整備すれば、災害時における避難所が冷房も暖房も効き、明かりがとれ、お湯が沸かせ、温かい食事が提供できる。さらにスマホも充電できるという状況が、一定期間可能な、そんな避難所にするのができる。

伊藤まさひろ・PROFILE

- 略 歴 ■
- ◆ 昭和30年 佐倉市に生まれる
 - ◆ 昭和53年 日本大学法学部卒業
 - ◆ 平成7年 佐倉市議会議員当選
 - ◆ 平成11年 佐倉市議会議員再選
 - ◆ 平成19年 千葉県議会議員当選
 - ◆ 平成23年 千葉県議会議員再選
 - ◆ 平成27年 千葉県議会議員3選
 - ◆ 平成31年 千葉県議会議員4選
 - ◆ 令和5年 千葉県議会議員5選
- 現 職 ■
- ◆ 印旛沼水質保全協議会 顧問
 - ◆ 農政審議会 委員
 - ◆ 佐倉リトルシニア野球協会 会長

●県政や佐倉市・酒々井町のまちづくりに関する悩みごと、気軽にご相談ください!!

伊藤まさひろ 県議事務所

〒285-0811 佐倉市表町3-6-28
TEL.043-485-8019
FAX.043-486-1616

HPもご覧下さい... 検索 ちば自民党 → 議員リスト → 県議会議員 → 佐倉市・酒々井町



再質問をする伊藤県議

振るわめ浄化槽法定検査 受検率向上へモデル事業

伊藤議員 水環境の保全を図るためには、家庭から排出される生活排水を適切に処理することが不可欠であり、下水道未整備地域においては浄化槽による処理と、その適正な維持管理が重要となる。

浄化槽法では、浄化槽の管理者に対し、装置の調整等を行う保守点検や、汚泥の引き抜き等を行う清掃、さらに県が指定する機関による法定検査の受検が義務付けられているが、依然として低い水準にとどまっている。

そこだろうか、が、法定検査の受検率向上に向け、行政と関係団体が連携し、どのような取組を行っているのか。

環境生活部長 浄化槽が適正に機能する

ためには、使用開始後及び毎年1回の法定検査が確実に行われることが必要であり、県としては、受検率向上のため、業界団体、指定検査機関、保守点検業者、市町村と連携して様々な取組を進めています。

具体的には、浄化槽の設置工事や保守点検に関わる業界団体等を通じた浄化槽管理者への法定検査の周知や、指定検査機関と協力して未受検者への指導文書の送付を行うとともに、送付後の問合せから検査の申込みまで対応するワンストップ

プ窓口を指定検査機関に設置しています。

関係団体等とは、定期的に見直しを行い、課題の共有や解決策の検討等を行う

しているところであり、今年度は、浄化槽管理者が受検しやすい仕組みの導入に向けたモデル事業を実施したところ。

伊藤議員 関係団体と進めている法定検査を受検しやすい新たな仕組みの検討状況はどうか。

環境生活部長 県では、浄化槽の法定検査の受検率向上を図る観点から、排水の汚れの指標となるBODを測定することで検査の一部を軽減して行うBOD検査を進めています。

検査の受付けを点検業者が代行

伊藤議員 モデル事業で得た意見や課題をふまえ、法定検査の受検率向上に努めていたとき、フースト3位とか4位というものを早期に改善いただくよう、強く要望する。

今年8月から9月に実施したところ。

現在、モデル事業に参加した事業者等から提出された結果報告書について内容を分析しているところであり、今後、課題等をしっかりと整理し、受検しやすい新たな仕組みの導入に向けて検討を進めてまいります。

伊藤議員 モデル事業で得た意見や課題をふまえ、法定検査の受検率向上に努めていたとき、フースト3位とか4位というものを早期に改善いただくよう、強く要望する。

今後、介護ロボットやICTの効果的な導入が進むよう、介護や商工労働分野の関係者等で構成される「介護現場革新会議」の意見等を伺いながら、介護現場のニーズや、これまでの導入事例から得られた知見等を踏まえ、より充実した支援に取り組んでまいります。

伊藤議員 介護ロボットやICTを活用した介護現場の業務改善は、介護サービスの質の向上や働きやすい職場環境づくりにつながる大変重要な取組となる。

県においては、介護ロボットやICTがより多くの介護事業所に導入されるよう、引き続き積極的に支援していただくよう要望する。

伊藤議員 「日本遺産北総四都市江戸紀行」における構成4市や企業等との連携について、県が首頭をとって取り組んでいくべきと考えるかどうか。

教育長 県教育委員会では、佐倉市、成田市、香取市、銚子市とともに設置した「日本遺産北総四都市江戸紀行活用協議会」の事務局として、民間企業と連携し、4市を巡るツアーの造成や

伊藤議員 「日本遺産北総四都市江戸紀行」における構成4市や企業等との連携について、県が首頭をとって取り組んでいくべきと考えるかどうか。

教育長 県教育委員会では、佐倉市、成田市、香取市、銚子市とともに設置した「日本遺産北総四都市江戸紀行活用協議会」の事務局として、民間企業と連携し、4市を巡るツアーの造成や

携し、国内外に多くの利用者がいるオンラインゲームの仮想空間上に佐倉城などの文化財を再現して、プレイヤーが巡ることで、体験型ゲームの開発に取り組んでいるところ。

今後とも、4市や企業などとともに、地域活性化につながる取組を進め、日本遺産の魅力を国内外に向けて積極的に発信してまいります。

日本遺産北総四都市江戸紀行

オンラインゲームを開発

介護人材の不足時代間近 介護ロボットやICTの導入を

情報のやりとりの見直しなど、業務の効率化を進めていくことが必要。

そこだろうか、が、県では、介護ロボットやICTの導入を促進するため、どのように取り組んでいくのか。

知事 高齢化が進展し、生産年齢人口の減少が見

達まされる中、限られた人材で介護サービスの質を高めていくためには、介護ロボットやICTの導入を進めることが必要。

そこだろうか、が、県では、介護ロボットやICTの導入を促進するため、どのように取り組んでいくのか。

知事 高齢化が進展し、生産年齢人口の減少が見